

29. 夏見廃寺 (昌福寺) 『薬師寺縁起』説

夏見の名張中央公園の中、陸上競技場と市民プールとの間の道を入って行くと夏見廃寺展示館と夏見廃寺跡があります。この場所は長い間雑木林で、土の中から瓦や仏像を彫刻した焼きものなどが出てくることから「ミステリースポット」として地元の人々に知られていました。1937（昭和12）年、伊賀地域の歴史研究グループの人たちにより瓦や礎石（建物を支える柱の土台）などが確認され、古代の寺院跡ではないかと考えられるようになりました。

1. 行ってみよう夏見廃寺跡へ

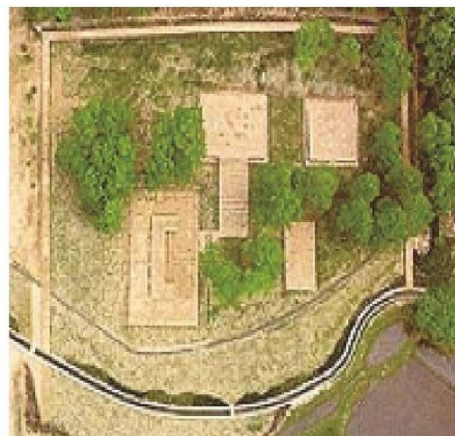
(1) 国の史跡に指定される せん仏出土の寺院跡

1946（昭和21）年から1947（昭和22）年にかけて京都大学考古学教室によって発掘調査が行われ、金堂や塔の跡が解明され、せん仏（型にねん土を押し込み、焼き固めて浮き彫り状に作った仏像のタイル）が出土する寺院跡として有名になりました。その後、名張市教育委員会による調査も行われ、7世紀末ごろに金堂が建てられ、8世紀中ごろに三重塔と講堂などが作られ、周りを土べいで囲っていたことや、10世紀末ごろに焼失したことなどがわかりました。

金堂の特色ある建築様式や多くのせん仏が出土するなど大和の中央勢力との深い結びつきを物語る貴重な寺院跡であることから、1990（平成2）年に国の史跡に指定されました。夏見廃寺への見学や観光に訪れる人は、市内や県内はもちろん、北は北海道から南は九州沖縄までと全国各地にわたっています。



小型のせん仏（独尊せん仏）

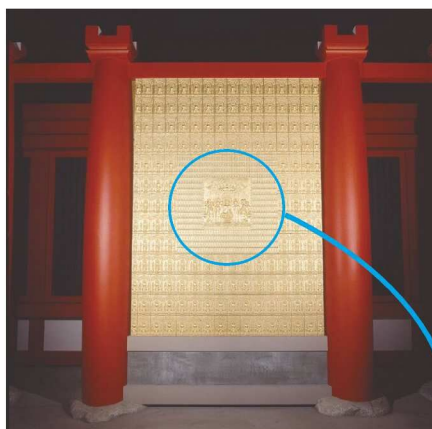


上空から見た夏見廃寺跡

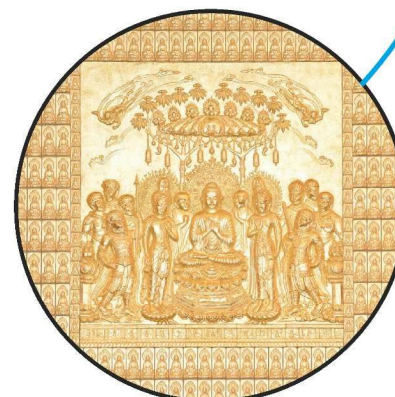


一段高くなっている所が基壇

左から講堂、金堂、塔の復元図

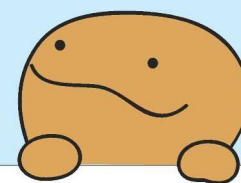


復元された黄金の壁（金堂）



大型せん仏（多尊せん仏）

中央の大型せん仏の彫刻は、阿弥陀如来が周りの弟子たちに説法をしている様子を表しています。周りの仏に高い鼻、長いひげ、彫りの深い眼などが見られます。



・せん仏の姿からどんなことが考えられるでしょう。
・せん仏の作り方を調べてみましょう。

(2) 黄金の壁 ～かがやく 金堂～

金堂は本尊を安置した主要な建物で、柱を支える礎石や基壇、金堂に続く階段などが残っています。

夏見廃寺展示館の金堂内部には、大型せん仏を中心に大きさのちがう5種類のせん仏700個余りを組み合わせてはりつけ、黄金の壁を復元しています。



夏見廃寺展示館

同時に出土した瓦の年代などから、「甲午年」は、694年ではないかと考えられています。



年号の記されたせん仏

これ文字やないか！

発掘調査中の調査員は、発見した数多くのせん仏片や土器などについて土を落としたり水洗いをしたりしながら整理作業をしていました。「これ文字やないか！」小さな灰黒色のせん仏片を手に、声も手もふるえました。凸線できりをした方眼の中に「甲午年□□中」の文字が浮き上がっています。

当時の新聞や聞きとりから（□□は不明な文字）

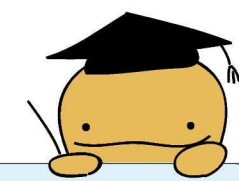
3. 壬申の乱と名張

大化の改新を推し進めた天智天皇（中大兄皇子）が亡くなった後の皇位をめぐり、その子どもの大友皇子と天智天皇の弟の大海人皇子（天武天皇）とに分かれての戦いを壬申の乱（672年）といいます。大海人皇子一行は吉野（奈良県）で兵をあげた後、味方をつのるために領地のある美濃の国（現在の岐阜県）をめざし、途中名張を通っています。朝廷に不満を持つ各地の豪族の支持を得て戦いに勝利します。その後、飛鳥の都へ入る前夜、名張で一泊しています。

…夜半に名張に入り、駅家（急な事態が発生した時、使者を遣わすため馬などを置いた役所）を焼いた。「天皇（大海人皇子）が東国に入られるぞ。みなついて参れ。」と叫んだが、だれ一人と出てこなかった。横河（名張川）に進んだところ、広さ三十数メートルほどの黒雲が天まで伸びていたので、「これはどうしたのか」とふしぎに思われて占いをされた後、「天下は二つに分かれているが、私が天下をとると占いにたぞ。」と力強く叫ばれました。…

『日本書紀』より
（現代語訳）

646（大化2）年の改新の詔には、名張が畿内（現代の首都圏のような区域）の東の端だという記述があります。



地域のお寺に行ってみよう

仏像の宝庫 弥勒寺

西田原の小高い山すそにある弥勒寺には、平安時代以降に作られた仏像が残されています。このような古い仏像は大変貴重で、国や県の指定文化財として大切にされています。地方の一つのお寺にたくさんの古い仏像があるのは珍しく、どうしてなのかは謎とされています。

木造十一面観音立像（国指定）

木造薬師如来坐像（県指定）

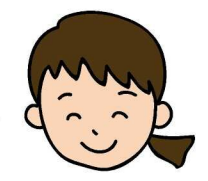
木造聖観音立像（国指定）

壬申の乱【→P46】

(3) 大来皇女が建てた？

夏見廃寺は、だれが何の目的で建立したかについて、多くの学者や研究者の意見があります。『薬師寺縁起』という平安時代に書かれた古文書に「大来皇女が、伊賀の国 名張の夏見に「昌福寺」という寺を父・天武天皇（大海人皇子）のために建てた」と書かれていることや、出土したせん仏や瓦などから「昌福寺」と呼ばれる寺が夏見廃寺ではないかという学説が有力です。

大来皇女について調べてみましょう。



奈良時代に編さんされた『万葉集』に大来皇女がよんだ歌が6首残されています。いずれも弟である大津皇子に関する内容です。

○わが背子を大和に遣るとさ夜深けて 暁露にわが立ち濡れし
○磯の上に生ふる馬酔木を手折らめど 見すべき君が ありと言はなくに

2. 『万葉集』と名張

『万葉集』には名張をよんだ歌が3首残っています。右の歌は、持統天皇（天武天皇の妻）が伊賀・志摩・伊勢を訪ねた時に同行した都の役人（当麻真人麿）の妻が作ったもので、名張では最もよく知られています。「なばり」に「隠」の文字が用いられています。

わが背子は
いづく行くらむ
おきつもの
隠の山を
今日か越ゆるむ

おきつも 【→P26】
大海人皇子 【→P46】
大来皇女 【→P55, P82】

この歌碑は、どこに建てられているでしょう。市内にはほかにも歌碑があるよ。探してみましょう。

作者はどんな気持ちをこめて作ったのでしょうか。

文中の「おきつも」は、名張の枕詞で、名張の代名詞の役割を果たしています。「おきつも」の名前は、いろいろなところで使われているよ。